

3. 図書館評価の方法

(1) 評価項目と評価指標

令和5年度の図書館運営方針に基づき、10の評価項目と具体的な評価指標を定めます。

[目標1]学びの拠点:本(情報)との出会い、生涯学習活動等を支える図書館づくり

(評価項目①～③)

図書館利用の促進、資料(情報)の収集・保存・提供、シニア・障がい者等の環境づくり、ICTを活用したサービスの充実等につながる指標を設定し評価します。

- ①市民のニーズに応える幅広い資料の充実
- ②市民の自主的・自発的な生涯学習活動の推進
- ③利用しやすく、ゆっくり滞在できる環境の構築

[目標2]創造と交流の拠点:ともに支え合い高め合う図書館づくり

(評価項目④～⑦)

市民との共働、関係機関等との連携・協力の推進、職員の資質向上につながる指標を設定し評価します。

- ④仕事や活動に役立つ資料等の提供
- ⑤課題解決に役立つレファレンスの充実
- ⑥市民との連携・共働体制の構築
- ⑦職員の専門性の向上

[目標3]知の集積拠点:シビックプライドの醸成に貢献する図書館づくり

(評価項目⑧～⑩)

地域の歴史と文化の保存・活用、子ども読書活動の推進等につながる指標を設定し評価します。

- ⑧福津の魅力発見等に役立つ環境づくり
- ⑨さまざまな個性や市民性を育む教育活動への支援
- ⑩郷土の歴史や文化が学べる環境の整備

(2) 評価方法

評価は、「指標別評価(3段階評価)」と「図書館の自己評価(4段階評価)」の二つを用いることにしました。

①指標別評価

指標別評価は、各指標の目標値と実績値を比較して割り出された目標達成率で設定された「評点3から1までの3段階」で行います。

指標別評価 (評点)	目標達成率 (年度実績／年度目標×100)
3	目標値の100%以上
2	目標値の80%以上100%未満
1	目標値の <u>80%未満</u>

目標達成率を算定するうえで必要な「年度目標値」は、別表「福津市公共図書館の図書館評価（評価項目・目標）」に基づき設定しています。なお、評価項目の指標、数値目標の基準、年度目標等は、図書館協議会の意見を聴き、必要に応じ見直します。

②図書館の自己評価

取組内容を明確に評価できるように、評価基準を設けています。評価は、評価項目ごとに指標別評価（評点）の平均点を算出し「評価基準」に基づき設定された「AからDまでの4段階」で行います。この評価は、図書館の自己評価となります。

評価	評価基準	評点の平均
A	目標を達成できた	2.7 以上
B	目標をほぼ達成できた	2.4 以上 2.7 未満
C	目標をあまり達成できなかった	1.8 以上 2.4 未満
D	目標を達成できなかった	1.0 以上 1.8 未満

③関係者（図書館協議会）の意見

福津市公共図書館評価票（自己評価及び改善策等）については、福津市立図書館協議会に報告し、評価項目全体を通しての意見聴取を行います。

□視点

- ・自己評価の内容は適切か。
- ・自己評価を踏まえた改善策は適切か。
- ・評価指標の設定が適切か。

（3）評価サイクル

- ①評価指標・目標値等の策定
- ②事業の実施
- ③利用者アンケートの実施
- ④自己評価
- ⑤分析・次年度への反映
- ⑥報告（図書館協議会・教育委員会）
- ⑦評価結果の公表

4. 評価の結果

令和5年度の評価結果は、次表のとおりです。

令和5年度 福津市図書館評価一覧

令和5年度の運営方針		評価	主な指標		評点
(1) 市民に愛され、市民を育み、輝かせる「学びの拠点」 [本(情報)との出会い、生涯学習活動等を支える図書館づくり]	①市民のニーズに応える幅広い資料の充実を図ります。 [評価項目：①市民のニーズに応える幅広い資料の充実]				
	・市民の生涯学習を支援する資料の収集、保存、提供 ・計画的な蔵書管理（体系的な資料の収集・廃棄） ・特別整理（蔵書点検）期間を設け全館資料の整理・点検等の実施 ・郷土資料、行政資料の収集、保存、提供 ・障がい者や活字弱者に対する適切な資料の収集と提供 ・非来館型サービス、読書バリアフリーの推進を図る電子図書館サービスの実施		資料数（蔵書数）	全体	
				図書	
				障がい者対応	
			市民1人当たりの資料数		
			電子図書館サービス	提供資料数	
			資料費	全体	
				うち図書	
				うち電子図書	
			市民1人当たりの資料費（図書）		
			図書資料についての利用者満足度（資料の豊富さ、充実度）	一般書	
				児童書	
			指標別評価（評点）の平均		
	②市民の自主的・自発的な生涯学習活動を支援します。 [評価項目：②市民の自主的・自発的な生涯学習活動の推進]				
	・図書館行事（講演会・講座・映画会・資料展示等）の実施 ・市民活動団体、自主学習グループ等への発表の場の提供 ・郷育カレッジとの連携による講座開催 ・行政機関や他機関（団体）との連携による多様な学習機会（コラボイベント）の提供		貸出資料数（電子図書館を除く）	全体	
				うち個人	
				うち市内個人	
			シニア(60歳以上)等の利用状況	利用者数	
				貸出資料数	
			市民1人当たり貸出資料数（電子図書館を除く）		
			資料回転率（電子図書館を除く）		
			電子図書館サービス	貸出点数	
				資料回転率	
				閲覧回数	
			映画会	開催回数	
				参加者数	
一般市民向け、講座、講演会、セミナー等			開催回数		
			参加者数		
展示会等	開催回数				
指標別評価（評点）の平均					

令和5年度の運営方針	評価	主な指標	評点
	③利用しやすく、ゆっくり滞在できる環境づくりを進めます。 [評価項目：③利用しやすく、ゆっくり滞在できる環境の構築]		
	・貸出以外でも利用しやすい環境づくり ・図書館ホームページの充実、図書館情報誌（広報誌）の刊行 ・広報活動・情報発信、インターネット等による利用促進、情報の提供 <u>・図書館から遠距離地域に住む住民に対する利便性向上</u>	年間開館日数（2館平均）	
		新規登録者数	
		市民登録率	
		来館者数	
		貸出利用者数	
		予約・リクエスト件数（電子図書館を除く）	
		ホームページアクセス件数	
		ホームページ更新回数	
		SNS更新(掲載)回数	
		広報ふくつ「図書館関係」掲載回数	
		図書館情報誌発行回数	
		特集コーナー開設回数	
		図書館費総額	
		市民一人当たりの図書館費	
		<u>公共施設・小中学校への本の集積</u>	
		指標別評価（評点）の平均	
（２）市民と共働し、まちづくりを支える「創造と交流の拠点」 [ともに支え合い高め合う図書館づくり]	①仕事や活動に役立つ資料等の提供を行います。 [評価項目：④仕事や活動に役立つ資料等の提供]		
	・カメラiasステージ図書館と役割分担・連携による「ビジネスコーナー」「医療・健康情報コーナー」「子育て支援コーナー」などの充実 ・関係機関と連携によるチラシやパンフレット等の資料の収集と提供 ・関連講座等の開催、テーマ展示による情報提供などの検討 ・暮らしや仕事に役立つセミナーの開催や各種専門機関との連携	連携事業の連携先機関数	
		自治体、企業、各種団体等と連携して実施した事業の件数	
		シニア向け、講座・セミナーの開催	回数 参加者数
		指標別評価（評点）の平均	

令和5年度の運営方針	評価	主な指標		評点
	②課題解決に役立つレファレンスの充実を図ります。 [評価項目：⑤課題解決に役立つレファレンスの充実]			
	・国立国会図書館協同データベースへの登録とその活用 ・ホームページや電子メール等によるレファレンスサービスの検討 ・商用データベース（新聞・雑誌、政策・法律、自然科学・医学、事典・辞書等）導入に向けての研究 ・他の図書館とのネットワークや関連機関との連携体制の強化		レファレンス件数	
			レファレンスに関する利用者満足度	
		図書館間相互貸借資料数	貸出資料数	
			借受資料数	
			指標別評価（評点）の平均	
	③市民参画、市民との連携・共働の体制づくりを支援します。 [評価項目：⑥市民との連携・共働体制の構築]			
	・人と人との交流を生み出す仕掛けづくりや図書館施設等の利用促進 ・地域コミュニティや目的別コミュニティとの連携 ・読書ボランティア、図書館運営サポートボランティア等の育成、連携及び支援 ・未来共創センター、市民共働・公民連携によるまちづくり活動への情報提供・活動場所の提供 ・子ども読書活動推進ボランティアとの共催による「読書まつり」の開催		図書館・読書ボランティア活動者数	
			ボランティアとの共働事業の件数	
			ボランティアとの共働事業の延べ実施回数	
			読書ボランティア派遣回数	
			読書ボランティア養成講座受講者数	
			児童書等団体貸出資料	
		雑誌スポンサー制度	協力者数	
			タイトル数	
			指標別評価（評点）の平均	
	④職員の専門性の向上に努めます。 [評価項目：⑦職員の専門性の向上]			
	・地域やまちづくりの課題解決のための情報提供 ・スキルアップ研修や実務研修等への参加による先進情報の収集、資質・能力の向上 ・研修内容の共有化		組織内研修の実施回数(2館平均)	
			専門性の向上につながる研修の受講	
		職員1人当たりの研修参加回数(2館平均)		
		指標別評価（評点）の平均		

令和5年度の運営方針		評価		主な指標		評点	
(3) 郷土の歴史や文化を未来につなげる「知の集積拠点」 [シビックプライドの醸成に貢献する図書館づくり]	①福津の魅力発見や市民の「知りたい」に役立つ図書館づくりを進めます。 [評価項目：⑧福津の魅力発見等に役立つ環境づくり]						
	・地域資料や行政資料の収集・活用・保存（再掲） ・郷土学習や次世代への継承に役立てる資料のデジタルアーカイブ化の検討 ・行政、郷育カレッジや関係団体等との連携によるまちの歴史・特色など魅力的な情報や学びの場の提供		地域資料数				
			デジタル化した地域資料数				
			講座、講演会、セミナー等のうち市の歴史・文化等に関連性のあるもの	回数			
				参加者数			
			指標別評価（評点）の平均				
	②学校との連携・共働を深め、さまざまな個性や市民性が育つことを支援します。 [評価項目：⑨さまざまな個性や市民性を育む教育活動への支援]						
	・学校や学校図書館との連携 ▶市内小学校への長期貸出・リクエスト貸出・レファレンス対応、中・高校生へ向けてのヤングアダルトコーナーの充実、図書館見学、職場体験、インターンシップの受け入れ、社会に開かれた教育課程の実現に向けた学校（学校図書館）への支援など ・子育て世代や児童・生徒の読書活動への支援 ▶乳児とその保護者を対象とした「赤ちゃんとのしむ絵本」の刊行とブックスタート事業の実施、子ども情報誌の刊行やおはなし会の開催、保育園等への支援、読書ボランティアの育成や派遣、子育て支援コーナーの充実、子ども司書養成講座・フォローアップ講座の開催など		資料（児童書）数				
			子ども(18歳以下)の貸出冊数				
			ブックスタート時の配付率（配付者/配付対象者）				
			施設向け絵本セット貸出サービス	貸出回数			
				おはなし会	開催回数		
			参加者数				
			社会科見学等の図書館見学受入回数				
			職場体験（小・中学生等）の受入件数				
			子ども司書養成講座受講者数				
			子ども司書フォローアップ講座参加者数				
			子ども司書(体験活動) 参加者数				
			指標別評価（評点）の平均				
			③郷土の歴史や文化を学ぶための環境整備を図ります。 [評価項目：⑩郷土の歴史や文化が学べる環境の整備]				
	・歴史資料館との連携による歴史・郷土学習への支援 ・行政、郷育カレッジや関係団体等との連携によるまちの歴史・特色など魅力的な情報や学びの場の提供 ・関係機関、地域活動団体、ボランティア団体等と連携・共働による図書館資源を活かしたサービスの提供		郷土学習支援、講座、セミナー、講演会等（行政、歴史資料館等との連携）	回数			
				参加者数			
			文化事業（展示会）の開催回数				
			指標別評価（評点）の平均				